

大分県町村会が行政視察



↑バナナの栽培方法を説明する中津社長(右から1人目)

大分県町村会は、福島復興の行政視察するため、広野町の二ツ沼総合公園を訪れ、新たな復興・創生に向けた取り組みとして行っている夢と希望がつまった国産バナナ園を視察しました。

その後、Jヴィレッジにおいて、福島県町村会長である遠藤町長が、共生のまちづくりへの道のりを「福島・復興・創生への災害に強いまちづくり」と題し、移住定住へ向けた交流人口から関係人口の拡大を展望するための講演を行いました。

田植え作業を体験



↑楽しみながら田植え体験をするアカデミー生

JFAアカデミー福島16・17期生の労作教育「田植え」が5月14日(土)、サポートファミリーである渡邊正俊さんの水田で行われました。渡邊さんから説明を受けたアカデミー生は、苗を運び、さっそく水田へ向かい、楽しみながら田植え体験を行いました。

田植え体験は、平成22年5月に第5期生が行って以来、12年ぶりの実施となり、16・17期生37名が参加しました。

住民説明会を実施



↑町の施策を説明する遠藤町長

住民説明会が5月14日(土)と15日(日)の2日間、公民館で開催され、13名の町民が参加しました。各課の課長が①新型コロナウイルス感染症対策経過について②令和4年度各課重点事業について説明し、町民からは、今年1月より配布を始めた抗原検査キットの活用状況やゴミの出し方などに関する質問などがあり、遠藤町長や担当課長がそれぞれ回答し、住みやすいまちづくりの実現に向けて意見交換をしました。

広野産バナナの濃厚プリン完成



↑製造に携った社会福祉法人友愛会ワークセンターさくらの皆さん

広野産バナナを活用したプレミアムバナナプリン「ひろばーのごちそう」の完成発表会がフラワーセンターで開催されました。株式会社広野町振興公社が地域を元気にしようと町の魅力向上による移住定住促進、特産品・土産品開発などを目的として製造に携わったいわき遠野らばんや社会福祉法人友愛会ワークセンターさくらとともに企画し、バナナ本来の味を生かした濃厚なプリンが完成しました。

ウクライナ人道危機救援募金の報告



↑寄附の報告をする中津代表取締役(左)

株式会社広野町振興公社 中津弘文代表取締役が5月12日(木)、広野町役場を訪れ、5月3日(火)に行われた二ツ沼総合公園ふれあいフェスタ2022において、ウクライナ人道危機救援募金として30,297円の寄附があったことを日本赤十字社 福島県支部 広野区分長である遠藤 智町長に報告しました。

5月11日(水)までに町内のウクライナ人道危機救援金募金箱に集まった70,399円と合わせて広野町社会福祉協議会を通じ、日本赤十字社に送金しました。

二ツ沼総合公園 ふれあいフェスタ開催



↑ステージイベントを行うクラブスチアリーダーズ

二ツ沼総合公園ふれあいフェスタ2022は5月3日(火・祝)、同公園で開催され、青空の下、町内外の大勢の親子連れで賑わいました。

株式会社広野町振興公社が主催し、ステージイベントではいわき市在住のChanoさんをはじめ、クラブスチアリーダーズによるチアダンスなどがイベントを盛り上げました。また会場では、各種団体による飲食ブースや敷地内に設置されている遊具で遊ぶ多くの家族連れで賑わいました。

童謡大使 眞理ヨシコ様 来庁



↑広野町役場を訪れた眞理様(右から2人目)

広野童謡大使である眞理ヨシコ様が5月11日(水)、広野町役場を訪れ、遠藤町長と懇談しました。

眞理様は、平成6年から開催しているひろの童謡まつりに毎年参加いただき、また、広野童謡大使として、平成8年より童謡・唱歌などの文化を後世に伝えるため、ご尽力をいただいております。

台風や新型コロナウイルスの影響により4年ぶりに広野町に足を運んでいただきました。

オーガニックコットンの種まきの実施



↑種まきを行う学生の皆さん

町内のNPO法人ひろのわいわいプロジェクト主催によるオーガニックコットンの種まきが5月15日(日)、浅見川地区の畑で行われました。今年度は、立正大学の学生が3年ぶりに参加し、更に福島大学の学生も新たに参加しました。

参加した皆さんは、この種まきを通し、対話・交流することの大切さを学び、種が成長することを願いながら一粒一粒丁寧に種まきをして、コットンの綿摘みができる喜びと再会を楽しみに作業を終えました。